

月刊

# エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2016年(平成28年) 9月号 第25号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数  
http://www.koureisha-jutaku.com

—Elderly Press Newspaper—

## 第20回 常用薬を忘れて旅に出て大慌て？

海外添乗員が受付の際にお客様に尋ねることとして、「お預けのスーツケースに現金・貴重品、パスポートやこれれ物はありますか」という決まり文句があります。介護旅行では、それが「貴重品や常用している薬は、お手元にありますか」に変わります。

### 旅の中止につながることも

先日、予定通り出発したトラベルヘルパーから、「今、お昼をとるところですが、薬が見あたりません」と、慌てた様子で連絡がありました。この旅の目的は、晩の花火大会、すでに道のりは半分まで来ていました。

「前日確認までしたのに、どうしてそんな大事なものを忘れたのか」と、つい現場スタッフを責めたくなりませんが、そういうことは後の話でツアー担当者は速やかに対処法を指示しなければなりません。

この旅には、看護資格のあるトラベルヘルパーが同行してい



▲昭和記念公園を散策、季節の花々をカメラに収めました

### 安全! 快適! 介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長  
篠塚 恭一

1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長



たので、まず処方箋を確認し、その薬が旅先で入手できるものか、服薬の遅れはどの程度許されるものかなど、判断を医師に仰ぐこととなります。直ちに服薬しなければ体調にかかわるものとわかれば、そのまま病院へ行くか、あるいは費用がかかっても誰かに持たせて後を追わせてよいのか、それも無理なら引き返すことを決めなければなりません。

幸い薬は携行した医療機器の中にあることがわかり、ことなきを得ましたが、出発する際の高揚感が「互いに相手が持ったはず」との思いこみを生じさせていました。

少しの油断が楽しみにしていた旅を中断させ、肝心の目的を諦めることになるかもしれず、楽しいはずの旅行気分は台無しになります。持ち物の準備は、客側が行うことになってはいませんが、ちょっとした「うっかり」で、念願の旅は簡単に壊れてしまふのです。

介護旅行のプロとして、基本を忠実に守ることの大切さを改めて感じた出来事でした。